

思えばすべての始まりはあの日…
都市から少し離れたところにある村へお祈りに行った日だった気がします。
そこで村長さんから最近村人の女性が数人行方不明になっていると相談を受けたのです。
そして行方不明になっている女性たちの共通点は「胸が大きい」ということ。
人さらいに遭った可能性もあるということでしたが、もしかすると淫魔の仕業かもしれないので
シスターである私に捜索をお願いしたいとのことでした。

淫魔は狡猾でずる賢く、なおかつ欲深い生き物です。
強い力を持つ淫魔であればこんな片田舎ではなく、目ぼしい獲物の多い都会の周辺で活動するでしょう。
実際に森は静かで淫魔の気配もほとんどありませんでした。
村の方の証言では時折くぐもった豚のような声がすること。おそらくゴブリンの類だと思いました。
本来であれば戦闘用の衣装に着替えるところですが、ゴブリン程度であればシスター服のままでも問題ない。
当時の私はそう判断しました。今思えば少し…油断していたのかもしれない。

森の中腹まで進んだ辺りだったと思います。
突然頭上から伸びてきた太い触手に絡みつかれ、一気に木の上まで釣り上げられました。
かなり高い木の上です。よほど注意して見ないとこんなところに淫魔がいるなんて気付かないでしょう。
私の周囲には村長さんから聞いていた行方不明の女性らしき方たちが吊るされていました。
そこで気付いたんです。私も『胸が大きい』女性であることに……。

く……ッ
迂闊でした……

まさかこんな高所に
潜んでいたなんて……

お……

触手の力はかなり強く、おまけに表面がぬるぬると滑りました。
シスターである以上ある程度の身体能力も備えています、
運よく拘束を逃れた片腕だけではどうにもなりません…
自傷覚悟の範囲魔法であれば状況を変えられる可能性はありましたが、
それをすると周囲に囚われている女性たちも巻き込んでしまいます。

この程度で私を捕えられると
思っているとは…

く…ッ…息が…
やめ…な…さい…ッ

ねこじかも拘束されているのはかなりの高所…少なからず犠牲が出てしまっしょう…
状況を打開する方法を必死に考えようと思いました…
首を絞められるせいで時々意識が薄れるのを感じました…
思考が飛び飛びになって…まったく捗りません…
正直少しでも呼吸しやすいように身体をくねらせるだけで精一杯でした…

私の胸に集るように触手が次々と伸びてきました…
デカ乳の女性の胸を狙う淫魔です…当然私のおっぱいが目当てなのでしょう…
運の悪いことに最初に絡みつかる際にシスター服は破られ…
ブラウスのボタンが飛ばされ…私の胸は大きく露出してしまいました…

やめてください…ッ
女神様に仕えるシスターの胸を
そのように揉むなんて…

とても恥ずべき行為です…ッ
天の御扉も開かれませぬよ…ッ

唯一の抵抗手段として残されていた手にも触手が絡みつき
露出している箇所を隠すのもままなりません…
できたのは精々おっぱいを揺らしながらシスターとして
調子に乗った煽りをするくらいでした…



づうに包まれてるところや紐しかないところ…
教本の触手に同時に愛撫される感触はまるで人間サイズではない
とても大きな手に胸を鷺掴みにされているような気分でした…
思わず説教を説いていた口から雌の声が出てしまいます…

揉まれたところがじんわり濡れて…熱くなるんです…
おそらく淫魔が分泌している体液のせい…だとは思いますが…
単純に…揉むのがすごく上手かったです…

※アリシアの脳内イメージです♡

私くらいデカ乳になると驚かすだけのことってほとんどないんです…♡
特に人間の殿方には絶対抱むの無理なサイズですから…♡
だからこういうのを妄想しながらオ○ニーしてたんです…♡
過○回ペースです…♡

淫魔のくせに…イ…♡
こんな大胆な…♡

ちよっといい手してるからといって…♡
女性の胸を…♡こんな…玩具みたいに…♡
揉みしだくなんて…♡

この状況でいくのダメなのはわかってたんです…♡
いったら最後の力が抜けて抵抗できなくなっちゃうから考え得る限り
最悪の悪手だってわかってたんです…♡
理屈ではわかってたんですけど…揉み方が私の解釈と一致しすぎて…♡

当然：淫魔は私の抵抗が弱ったタイミングを見逃しませんでした…♡
唯一拘束から逃れていた腕も後ろに絡めとられ…
両腕セツトで身体の後ろで縛られました…♡

あ…そんな…腕が…♡
ダメです…やめてください♡

私は…ニスターですよ…♡
それを…こんなはしたない姿勢で
縛るなんて…♡

「やめてください」みたいなのを言いましたが口だけです…♡
ニスターが簡単に淫魔に負けるわけにはいきませんからそれっぽいこと言いました…♡
ホントはデカ乳を前に突き出す口実ができて興奮してたんです…♡
捕まってる方々…♡おっばいで敗北イメトレオ○ニー大好きなニスターが
助けに来ちゃってゴメンナサイ…♡

そんな私の発情を感じ取ったのか…淫魔が差し出してきたのは…♡
ドロドロすぎて全然滴らないくらい濃厚な体液…♡
臭いを嗅いだだけでわかりました…♡ダメなやつです…♡

なん…♡ですか…♡
それは…♡♡♡

おっ…♡

!?

おっ…♡

んおっ…♡

ぐっ…♡

おっ…♡

ぐっ…♡

おっ…♡

おっ…♡

おっ…♡

私はシスターとしてちゃんと『ダメです』って断りました…♡
空気が足りない脳みそで必死にシスターらしい口上を考えて断りました…♡
でもたぶん断るとき顔は出来てなかったと思います…♡
だって臭いを嗅ぐだけで脳がビリビリして乳首が疼くんです…♡

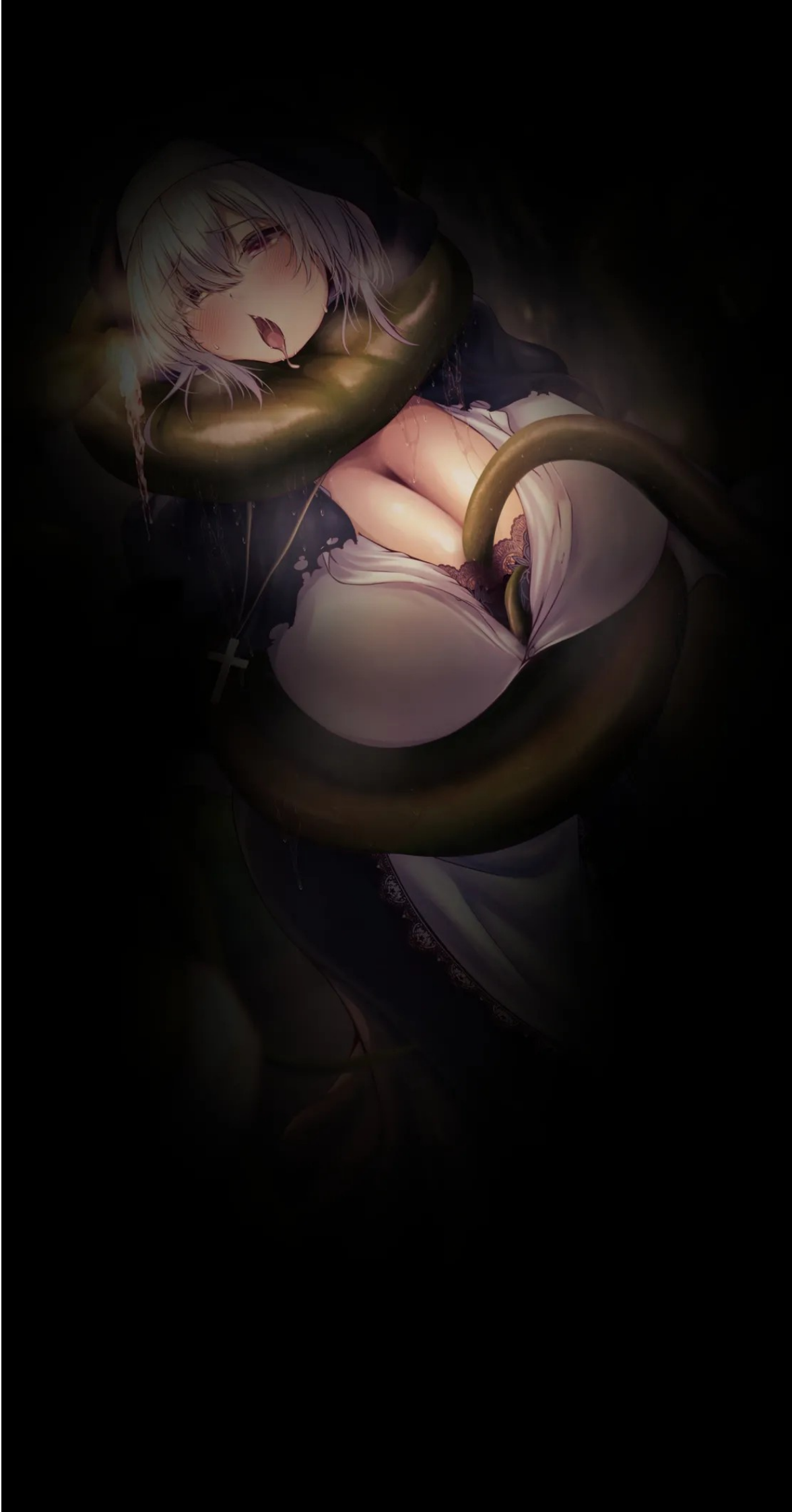
ダメです…その…♡
見せつけるの…♡
…やめてください…♡

私…その…♡そう…♡シスターなので…♡
淫魔の方から…施し…♡ダメなんです…♡
あ…♡こぼれちゃう…♡♡もったいない…♡

飲んだこともないのに絶対美味しいってわかるんです…♡
絶対に飲んじゃダメってわかってるんですけど…♡
私の口に入らずに…♡舌になっちゃうコシが…♡
すく…♡もったいないって思っちゃったんです…♡



絶頂で真っ白になった脳みそに触手子のポの濃い臭いは強烈で…♡



ἵεψ...

ἵεψ...

気が付いたら私は夢中で触手子のボをしゃぶっていました…♡
無理やり啜えせられたのか…自分から啜えたのか…♡
それはよく覚えていません…♡この濃いジュースを飲んでいると
そういう細かい事はどうでも良くなるんです…♡

デカブラムも丁寧に抜かれて…私の隣に吊るされました…♡
周囲の方々と同じ道を着実に辿っている…♡
それはわかっていましたが抵抗する気はまったく起きませんでした…♡

どうしたら確実に飾っていただけなのか…♡
そのための口上は…抵抗する時の言葉よりスラスラ出てきました…♡

自己紹介が遅れ…申し訳ございません…♡
私…115センチMカップのデカ乳…♡
アリシア…と申します…♡

淫魔様のデカ乳コレクションに
加えていただくために…♡
都会からデカブラ付けて参りました…♡
もちろんデカ乳は成乳可能です…♡

名前は覚えていたがなくて大丈夫です…♡
メートル余裕超えのデカ乳が丸呑み希望…♡
とお伝え申し上げます…♡





おっ!?

私のデカ乳報告をちゃんと受け取っていただけたのかはわかりません…
でも…♡またおっぱいを触手で鷺掴みにしていただけたんです…♡
デカブーなしで…しかも淫魔様の特濃体液をたっぷり飲ませていただいた後ですから…♡
こうしておっぱいを軽く揉まれるだけで普通にイケました…♡

おっ!

おっ!

おっ!

おっ!

おっ!

おっ!

おっ!

おっ!

おっ!

おっ!

おっ!

おっ!

※アリシアの脳内イメージです♡

瞳を閉じればさつきよりはっきりと大きな手をイメージできました♡
デカブラ抜かれたからではありません♡
私の中でこの淫魔様のデカ乳コシクシヨンに加えていただくイメージが♡
墮ちるイメージが固まったからだと思います♡

淫魔様…♡それ気持ちいいです…♡
もっと…♡もっと揉んでください…♡

もちろんシスターとしての本分を忘れたわけではありません…♡
むしろシスターとしてデカ乳を揉まれてるから興奮するのです…♡
こうして人目のない場所に連れ込まれ…理想の殿方にデカ乳だけで
墮としていただく…♡背徳感で脳内麻薬ドバドバです…♡

本当に…幸せな時間でした…♡
デカ乳をじっくり揉みほぐされながら…♡
お口と谷間の両方で雌堕ち確定ジューズをいただく…♡
おっぱいの中と外からマーキングされているみたいでたまりません…♡

信仰のために司祭様や信者の方々と股間を重ねることはありましたが…♡
そんなに徹底してデカ乳扱いしていただけるのは初めてでした…♡
雌として子を宿すことは大変光栄なことでもそこに疑問を感じたことは
ありませんでしたが…♡

毎晩自分のベッドで私のこのいやらしく発育したデカ乳を…♡
殿方に見られながらマジバस्तをご報告する妄想をしていた私にとって…♡
『アリシア』ではなく『デカ乳』として扱っていただけこの状況は…♡
非常に腑に落ちたのです…♡性癖の100%完全一致です…♡

きつと毎晩私のデカ乳報告オ○ニーを天から見られていた女神様が…♡
メイドル超えの変態デカ乳にふさわしい場所をご用意して下さいましたので…♡
私がこんないやらしい身体で今までシスターをやっていたのは…♡
ここで淫魔様のデカ乳コレクションとして並べていただくためだったのだと感じました…♡

淫魔様…♡アリシアのデカ乳…♡
もうパッチリ仕上がりっております…♡
淫魔様に服従誓ってます…♡

シスターの魔力たっぷり濃厚ミルク…♡
ぜひご賞味いただきたいです…♡
こんな吸いこたえなさそうな方々より
絶対美味しいですよ…♡

女神様に誓って保証いたします…♡
だから…♡淫魔様…♡お願いします…♡
早く…♡早くこの卑しい雌ウシを…♡



どうぞ…♡
お返しありがとうございます…♡

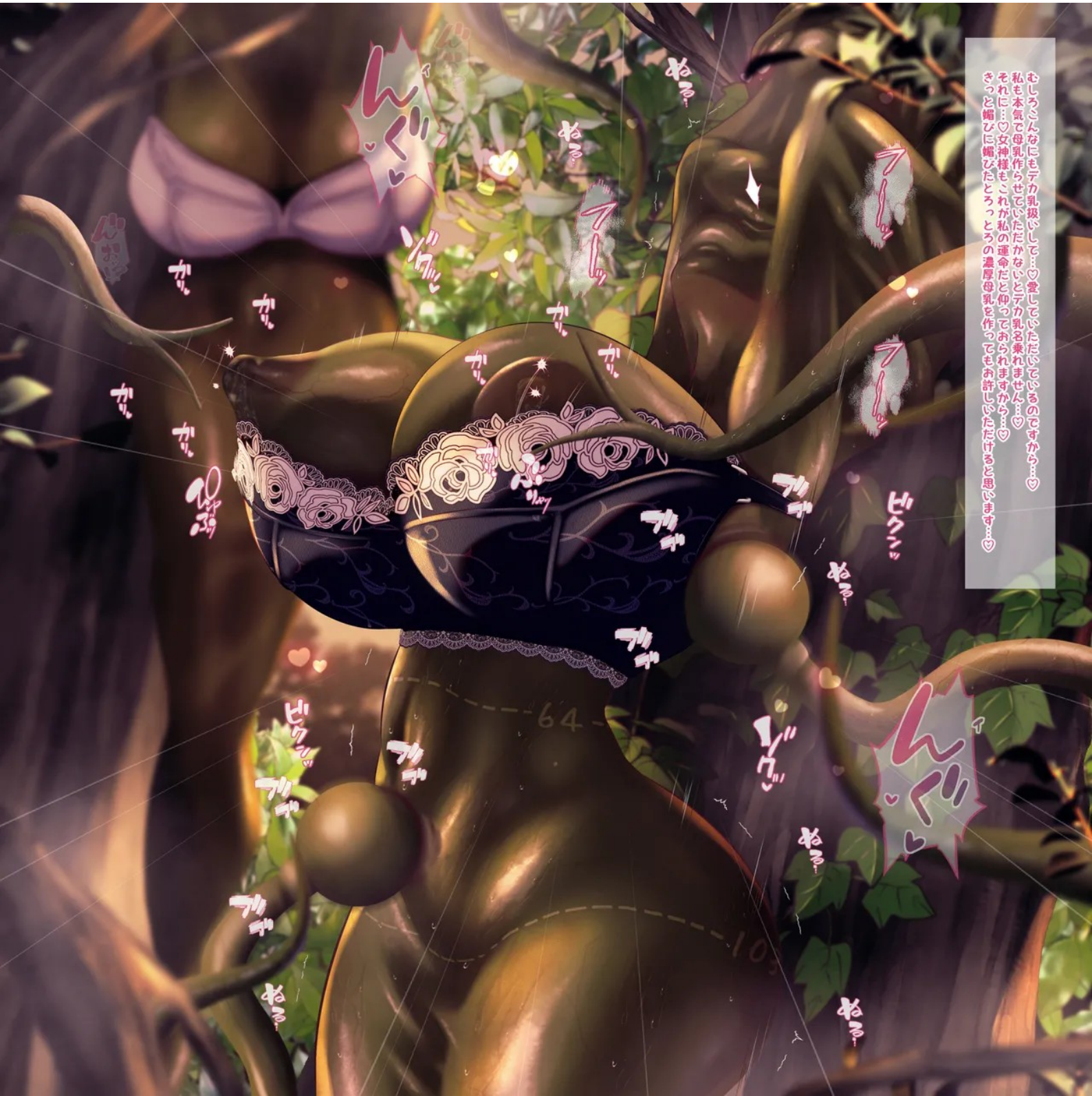


丸呑みいただいた私の身体に淫靡様の膜がびったりと貼り付くように貼り付いてきます。最初は濡れた衣服が貼り付くような感覚でしたが、ゆるゆると時間をかけて生温かい膜の感触に変わってゆきました。この薄い膜の中でアリアは「テカ乳」から「デカ乳」に生まれ変わるのです。もちろん「アリア」も今だけの名前です。♡



この膜は淫魔様の胃袋に当たるもの…なのだと思います…♡
胃袋にデカブラ巻いて中に入ってる雄を識別するわけです…♡
私のようなマソのデカ乳にはこの方法はすい効果的で…すっごく♡興奮しました…♡
たっぷり外からどう見られるのか…脳みそでイメーシ生成する時間もあったので尚更です…♡
ヌミマセン…♡変態のお聞き苦しい話失礼しました…♡
この中で私たちがデカ乳が何をさせていたか…なんですけど…♡





むしろこんなにもデカ乳扱いして…♡登っていた方がいいのですから…♡
私も本気で母乳作らせていたんだけど乳名乗れません…♡
それに…女神様もこれが私の運命だと仰っておられますから…♡
さっど幅に幅ひたさっど…の濃厚母乳を作ってもお許しただけなと思ひます…♡

願わくば...この幸せな日々が...
永遠に続きますように♡♡

To be Continued...